

重要無形民俗文化財登録！！ 糸崎仏舞（ほとけまい）

～仏舞紹介～

【所在地】ふくいけんふくいしいとさきちやう福井県福井市糸崎町 【保護団体】いとさきじほとけまいほぞんかい糸崎寺佛舞保存会

【奉納期日】隔年（西暦奇数年）4月18日 【指定期日】平成16年2月6日指定

糸崎の仏舞は、2年に1回の4月18日に奉納されます。舞人は8人います。頭に飾りのついた三角の白い布をかぶり手になにも持たない4人をてほとけ手仏^{※1}と呼びます。他の4人は、頭に天使のかんむりの様なものをかぶります。そのうち、左手に小さい太鼓を持ち、両手にバチを握る2人をはしほとけ撥仏^{※2}と呼びます。もう2人は、左手に小さい太鼓を持ち、右手に撥を握っており、だごほとけ打鼓仏^{※3}といます。舞人の他に、金色の仏の面を付け、頭にえぼし鳥帽子かぶるねんぼさつ念菩薩^{※4}と呼ばれる人が2人います。青色の法衣とほうい袴はかまに口を開けたあ念仏を阿、口を閉じたうん念仏を吽といます。この念菩薩は、金色の仏の面を付け、頭にえぼし鳥帽子をかぶっています。さらに、白の法衣とほうい袴はかまに白色のどうじ童子面てんかんをつけ、頭に天冠かどまもをのせたかくまもり角守り^{※5}と呼ばれる2人の幼児が登場します。また、うたいまいのひと楽人^{※6}という演奏者がいます。うたいまいのひと楽人は、頭にえぼし鳥帽子はかまをのせ、紫の袴りゅうてきに金色の上着ひちりきを着け、龍笛、箏、が各3名、しょう笙とかくたいこ樂太鼓が1人ずついます。舞は太鼓としょう鐘の音に合わせて舞います。服装は金色の服の人が楽器を演奏し（りゅうてき龍笛など）座って演奏しています。舞う人は黒の服で棒を持っている人と持っていない人がいます。子供は白の服で手を合わせています。一番太鼓の舞、二番太鼓の舞、三番太鼓の舞があり、それぞれに意味があります。一番太鼓と二番太鼓の音にあわせて8人の舞人が中央に集まり、円になって舞います。三番太鼓の舞では、舞ながら1人ずつ抜けていきます。最後1人になったときのことを舞残りといえます。



傍線部の詳しい説明

舞仏は、手仏4人、打鼓仏2人、撥仏2人の8人で舞われ、舞台の4つ角に、念菩薩2人、角守り2人が立つことになっています。

舞人（成人） …黒頭巾で頭を包み、金色の仏の面をつけ、黒の法衣をまとい袈裟をかけ、白い手袋を着ける。

※1
手仏…天冠をかぶり、手に何も持たない。



※3
打鼓仏…左手に小さい太鼓を持ち、右手に撥を握る。

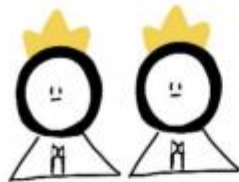


※2
撥仏…両手に撥を握る。



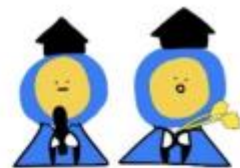
※5
角守り（幼児）

白の法衣と袴に
白色の童子面を
着け、頭に天冠を
乗せる。



※4
念菩薩（学生）

青色の法衣と袴を身につけ、金色の仏の面をつけ、頭に烏帽子をかぶる。



※6
楽人（うたまいのひと）は、仏舞の間、雅楽の演奏をする。
頭に烏帽子をのせ、紫の袴に金色の上着を着ける。



龍笛（3人）



篳篥（3人）



笙（1人）



太鼓（1人）



鉦（1人）

